
父とパパは別かよ～っ！

浅川太郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

父とパパは別かよ〜っ！

【Nコード】

N0671Z

【作者名】

浅川太郎

【あらすじ】

夜の女性にお金を貸すが、返ってこない

(前書き)

毎晩でも、今でもバリエーションを変え、繰り返されてる話だと思
います。

もうすぐ卒業という頃、博多は中洲の夜の女性を好きになったことがある。

一度、店がハネた後、デートしよう誘い、デートしたことがある
今なら、「アフター」した、で済む。

待ち合いに決めた喫茶店で待つてると、女は、自分の部下と思われるような女と二人で来た。

「帰る方向おんなじだし、ちようどおなかも空いてたし、いい？」

「うん、いいよ」

サンドイッチ、その他の軽食をとり、店を出たら、さすがに師走、目を凝らすと白い雪が降ってきて、彼女の黒いコートの上で消えた。店内からイーグルスの『呪われた夜』が聞こえてきた。

いつの間にか、彼女が連れてきた女もいなくなっていた。すると彼女は、

この頃わたし、いつも考えてるんだけど、この商売は長く続け
てはいけないと思うの。前に簿記とか珠算、勉強してたんだけど、
もういちどやりなおして、ちゃんとした職に就きたいの。

いいことじゃないか。

で、お願いがあるんだけど。

何？

お金、貸してほしいの。

百万なんて無理だよ、学生だし。

ふふ、と笑い、

二万でいいの。

僕は貸した。

社会人となり、関東で過ごした。

なかなか返却されなかった。

いくらヒトのいい僕にも、騙されたと理解できた。

僕は彼女に手紙を書いた。はやく返却してくれ、とは書かなかった。返事が、来た。「なんだか、あなたの書くことに皮肉を感じます。

いえ、分かっています。わたしがいけないのかもしれませんが。もう少し持^{まま}ってください」とあった。

夏休みが近づいても返却されない。

もはや返してもらおうこともないとは解っていた。

そして夏休み。

帰省のついでに、彼女の家をさがしてみることにした。

博多区の町名だった。

何かしら、「貧民窟」という言葉が連想された。

住所を頼りに女の家をさがし当てた。

崩れかけたような暗い家の前、250ccくらいのバイクが置いてあり、幼稚園児であろうか、二人の男の子がサドルにのって遊んでいた。

「石村里子さんのところって？」

「ここやけど、いま、おらん」

「お父さんは？」

「死んだ」

「じゃあ、それ、だれのバイクなん？」

「パパの」

(後書き)

里子さんは、子供に、父さんは死んだ、今いるのはパパだ、と教えていたんでしょう。今の僕なら、喫茶店に女を連れてきた段階で、あ、フラれたと理解する。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0671z/>

父とパパは別かよ～っ！

2011年12月2日17時53分発行